

7月のイベント情報

木を知ろう！

雑木林の木を実際に切って、硬さや音・重さなどを調べてみよう。かわいいこけしも作ろう！

開催日時 7月6日（日）午前10時から12時頃まで
定員 20名
開催場所 オオムラサキ自然公園
持ち物等 軍手・動きやすい服装
※ 雨天中止

昆虫酒場をのぞいてみよう

樹液に集まる昆虫を、昼と夜とで観察してみよう。夏休みの研究など、君たちが取り組んでいることに昆虫博士たちが相談にのってくれるコーナーもあるよ！

開催日時 7月26日（土）
午後4時～ 昼の観察
5時～ 相談コーナー
6時～ （自由 夕食等）
7時～8時30分 夜の観察
定員 30名
開催場所 オオムラサキ自然公園
持ち物等 鉛筆・メモ・昆虫図鑑・懐中電灯・長そで長ズボン・運動靴・虫除けぬり薬
※ 雨天の場合は4時～5時まで相談コーナーのみ開きます。

小枝で作る！虫の工作

強そうなカブトムシ、カッコいいクワガタムシを小枝で作ってみましょう！

開催日時 7月27日（日）
午前10時から12時まで
午後1時から3時まで
講師 田中 旻
定員 20名
開催場所・服装・入館料は「森の工作教室」と同じ。材料費は無料。

お問い合わせ・お申し込みは

〒408-0022
山梨県北巨摩郡長坂町塚川2812番地
長坂町オオムラサキセンター
TEL&FAX 0551-32-6648
URL <http://www.yatsui.gr.jp/ngs/oomurasaki/index.html>

連続講座 オオムラサキ博士になろう！ 第1回 「サナギから成虫へ」

羽化する直前のサナギの様子を楽しく観察しよう。

開催日時 7月12日（土）
午前10時から11時30分まで
定員 30名
開催場所 「びばりうむ 長坂」
協力 自然とオオムラサキに親しむ会
持ち物等 鉛筆・メモ・虫メガネ（ある方は）・雨具（雨天時）
※ 雨天開催

望月悠加 切り紙の世界 ～私の大好きな昆虫たち～

紙から生まれた、立体の昆虫・動物・恐竜が、きみを待っているよ！

開催期間 7月1日（火）～8月31日（日）
開催場所 森林科学館
入場料 大人400円、小中学生200円
（町内中学生以下は無料）

森の工作教室

★本立て・CDラック・状差しなどを作ってみよう！

7月6日（日）午後1時から3時まで

13日（日）午前10時から12時まで

★糸のこで楽しもう！風にゆれる木のオブジェやモビールなど。

7月20日（日）午後1時から3時まで

講師 田中 旻
定員 各日20名
開催場所 森林科学館
服装 作業のできる服装
入館料 大人400円、小中学生200円
（町内中学生以下は無料）
材料費 実費
※ 所要時間はそれぞれ最低1時間です。

編集後記：大変お待たせしていた62号を、やっとお届けする事ができました。ご意見ご感想等ぜひお寄せください。伊藤麻実

オオムラサキ通信

NO. 62

発行：平成15年6月30日
編集：長坂町オオムラサキセンター

オオムラサキ博士になろう！

このコーナーでは、身近な自然のことや知っているようで知らない昆虫のことなどを紹介していきます。

飛び交うヒョウモンたち

6月下旬より北巨摩はヒョウモンチョウたちの羽化シーズンを迎え、畦や休耕田に咲くアザミには成虫が訪れています。ヒョウモンチョウはタテハチョウの仲間で、動物のヒョウのようにオレンジ色に黒い斑点があることからつけられた名前です。成虫は年に一回、主に初夏に現れます。

長坂周辺に生息しているのはヒョウモンチョウの中でも大型の種類です。大型のヒョウモンに共通しているのは、幼虫が主にスミレの仲間を食べて育つという点です。最もよく見かけるのは、メスグロヒョウモン、次いでミドリヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ウラギンスジヒョウモンです。たまに見かけるウラギンヒョウモン、クモガタヒョウモン、ツマグロヒョウモンをあわせると、長坂では少なくとも7種類のヒョウモンを観察できます。成虫はオオムラサキのように樹液を吸うことはありません。彼らが大好きなのは、花の蜜です。アザミやヒヨドリバナ、ムシトリナデシコ、トラノオなどの花にはよく飛んできます。園芸植物では、庭先に植えられたブッドレアの花に集まってきます。

調べてみよう！ヒョウモンチョウの謎

大型のヒョウモン類は、チョウの中でもどちらかといえばよく見かける種類です。しかしその生態はまだわかっていないことが多いのです。例えば今紹介した花の中でも、それぞれの種がどの花を好むか、などもよく判っていません。（次ページへつづく）



ミドリヒョウモン

①ヒョウモンチョウを庭に呼ぼう

こうした謎をとくには庭にヒョウモンを呼んで観察するのが一番です。成虫が飛んできそうな花を花壇やプランターに植えてみましょう。様々な花を同じぐらいつつ植え、どの花に最も飛んできたかを観察すれば、どれが一番好きな花なのかわかるでしょう。成虫の産卵や幼虫を観察したいなら、スマレを植えてみましょう。鑑賞用のアメリカスミレサイシン（パピリオスミレ）が多くの種にも好まれるので、おすすめです。また、様々な種類のスマレを植えておけば、どの種がどのスマレを食草にしているのかが判るでしょう。

②夏眠の謎

成虫は長生きで、6月下旬から9月末まで生きます。しかし猛暑になる7月中旬から8月下旬にかけて、パタッとなくなってしまう。暑さを避けてどこかで休んでいるのですが、これを夏眠（かみん）といいます。夏眠する場所については、羽化した場所の近くの草むらや林の中という説と、涼しい高原で行われるという説があります。どちらなのかはわかっていません。そして、涼しくなる8月下旬に再び見かけられるようになります。猛暑の期間はいったいどこで休んでいるのでしょうか？一度いなくなったヒョウモンは再び元の場所に戻ってきているのでしょうか？

これを明らかにするのに良い方法があります。初夏に成虫がいるところに行き成虫を捕まえ、羽にマークして放してやるのです。秋に同じ場所でマークした成虫を捕まえることができれば、成虫が夏眠してからまた同じ場所に戻ってきているという証拠になるでしょう。高原に移動しているかどうかを明らかにするには、7月中旬から8月下旬に高原に行きマークした成虫を捕まえないけません。これは個人ではちょっと難しいかもしれませんが、でも、高原に訪れた人がマークのついたヒョウモンを見たり、捕まえたしたりしたら、ニュースになるかもしれません。そんなことになれば、「ヒョウモンは高原に夏眠しに行く」という発見になるでしょう。マークは油性のマジックペンでOKです。なるべく多くの成虫にマークしましょう。ただし、1本のマジックで何度も羽にマークしているとインクが出なくなってしまうので、4~5本のマジックを持参し、順々に使っていくのがよいです。マークは後ろの羽の裏側に書きます。マークは「1、2、3…」などの数字にして、メモ帳に1番とマークした成虫は何月何日にマークしたかを記録します。秋になったら再び成虫を捕まえに行き、羽にマークがあるか確かめてみましょう。

長坂町のように身近に自然があって、ヒョウモン類をたくさん見れる場所にお住まいの方は、お子さんの夏休みの自由研究も兼ねて、ぜひチャレンジしてみてください！

(自然とオオムラサキに親しむ会 小林隆人)

虫の本棚

『蝶』 ヘルマン・ヘッセ著

フォルカー・ミヒェルス 編 岡田朝雄 訳 岩波同時代ライブラリー

ヘッセと言えば誰でも青春時代にその作品を一度は手にするほど有名ですが、実は大の蝶愛好家であったことは皆様ご存知ですか。

この本は、蝶と蛾を主題とした散文9篇・詩11篇で編集されています。中でも『クジャクヤママユ』（「ちくま文学の森」にも収録されています）は、ヘッセ自身も愛着を持ち後に手を加え、題も『少年の日の思い出』（高橋健二訳）として改めて新聞に発表しました。それが新潮社のヘッセ全集にも収録され、現在中学校の国語の教科書にも載っています。お読みになった方も多いかと思います。

友達の珍しい標本を衝動的にポケットに入れてしまった少年。過失に揺れ動く心。謝罪。しかし拒絶された少年はひとり、自分の大切な標本を手に、思いがけぬ行為に及びます。その心の痛みは私たちに消しがたい印象を残します。

本書では作品が成立年代順に並べられ、ヘッセの蝶への思いの変化が伺えます。全篇を通して美しいカラー図版と、巻末には作品別に登場する蝶や蛾の学名、ドイツ語名と解説が付されています。

この本及びこの版の元となった朝日出版のものも現在絶版で、書店では入手できません。図書館などでご覧下さい。

(オオムラサキセンター 荒畑ふさ枝)



「びばりうむ 長坂」内で撮影。

あれっ?? フシギなサナギ発見

自然界では、ときどき「あれっ?」と思うような現象に出会うことがあります。オオムラサキでは、今年、群馬県で雌雄同体の成虫が見つかり、話題になりました。

オオムラサキセンターでも、6月に、幼虫の頭部をつけたサナギが、観察施設「びばりうむ 長坂」内で1体見つかりました。(左写真)これは、サナギになる時に何らかの原因で頭部が脱げなかったためと考えられます。こうした例は少なく、大変珍しいことのようにです。職員一同、成虫になるのを心待ちにし、観察していたのですが、残念な事に、ある朝サナギが枝から消えていたので、成虫を見ることはできませんでした。サナギが地面に落ちてしまったのか、うまく成虫になったのか、その後の行方は分かりません。

幼虫の頭部をつけた成虫（チョウ）が見たい方は、センター内に標本がありますので、来館された際にご覧下さい。1995年7月に長坂町日野春小学校の観察施設で見つかったものが展示されています。

6月15日（日）に、オオムラサキ自然公園で、石澤直也さん（国際トンボ学会会員）を講師に招いて、「里山のトンボ観察会」が行なわれました。

当日は、公園内の池や沼、川を歩きながら、11種類のトンボを確認・観察しました。大きいクロスジギンヤンマ・羽に4つのホシがあるヨツボシトンボなどを発見すると、子ども達は夢中になって網を振ったり、観察したりしていました。

(※オオムラサキ自然公園では、動植物の採取はしないようお願いしています。今回は観察会ということで、捕まえました、その後はもとの場所に放しました。)



トンボの眼はどうなっているの？



6月27日（金）午後6時より、森林科学館で「ホタルの舞うタベコンサート」が開催されました。当日は、コンサート・ホタルのスライドトーク・観察会が行なわれ、約120名の方が参加しました。

童謡歌手の雨宮知子さんのコンサートでは、映画「千と千尋の神隠し」の主題歌をはじめ、「ぞうさん」「ホタルのふるさと」などを歌っていただきました。観察会では、自然公園内の宮川沿いにたくさんの源氏ホタルを観察することができ、参加者は「きれい!」「初めて見た!」などと歓声をあげながら幻想的な光を楽しんでいました。

★お知らせ★

夏休み期間中（7月20日～
8月31日まで）は、毎日開館します。